

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

**達成度(評価)**  
**A**: 十分達成できている  
**B**: おおむね達成できている  
**C**: やや不十分である  
**D**: 不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校(定時制)
1 前年度 評価結果の概要	・近年では、生徒の多様性が大きく目立つようになり、中学校等での不登校傾向生徒の占める割合が大きくなってきている。学習面では、これまで十分な学習を積み重ねることができなかった生徒も多く、学びたいという意欲は多くの生徒が共通して抱いている。そのため、授業への取り組み方は熱心で意欲的であるが基礎学力が十分身についていない生徒も多いため、学び直しの時間も確保しながら学習指導に当たっている。生徒指導面では、年度当初は幾つかの問題行動等見られたが、徐々に学校生活も落ち着きを見せ過ごすことができるようになった。ここ数年は出席率の低下が顕著に見られるようになり、担任からの生徒及び保護者への声掛けや、教務担当者での生徒面談などを行ったが大きな効果は得られなかった。今後は、入学時より授業への興味関心を喚起できるような教育課程の編成など検討していきたい。また、ちょっとしたつまづきが原因で休学や退学を余儀なくされる生徒もいるため、全ての職員が生徒理解に努め、職員全体で本校の教育目標実現に向け邁進していきたい。
2 学校教育目標	・平和で民主的な社会の形成者として、個性豊かで人間愛に満ち、国際的視野に立つて社会に貢献できる、心身ともに健全な人間を育成する。

3 本年度の重点目標	①出席率の向上と教育活動の改善 ②あいさつ、服装、マナー指導の徹底と思いやりの心の醸成 ③進路保障に繋ぐ学力向上、資格取得、部活動 ④生徒、職員の心身の健康増進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○出席率の向上 ○基礎学力の向上と学習意欲の喚起	○出席率90%以上を目指す。 ○進路決定100%の達成を目指す。	・欠席が多い生徒の保護者と密に連絡を取り、改善に向けて家庭との連携を図る。 ・職員相互の授業見学と公開授業の実施 ・学習に関するアンケートを実施し、指導法の改善と学力の定着を図る。	
	○基礎学力向上を目指すことにより、進路保障へ繋いでいく。	○就職率・進学率100%達成を目指す。	・就業率を上げるための進路指導を行う中で過去問題やSPI対策の充実を図る。	C	・現在卒業が見込まれている生徒10名の内、進路が決定している生徒は7名であり、決定率70%となっている。(1月末現在) ・小テストなどを実施することにより基礎学力向上を図ることができた。 ・夏季休業後より生徒の進路希望に対応した履歴書指導、面接指導を充実させることができた。 ・就職希望先を決定させるまでに大幅に時間を要したため早期に決定させる指導の実施が今後の課題である。	B	・欠席が多いと進路も決まらなしい、就職も進学も難しいと思います。 ・就職が決まっていないのはコロナの影響でしょうか、リモートで働ける会社などあるか調べられてはどうでしょうか。	進路
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの「学校行事等への取り組み」をB判定以上を目指す。 ○1年間に心の成長を実感する生徒を100%とする。	・HR活動等を通して、寛容の精神や社会人としての当事者意識を養う指導を行う。 ・講話や講演会後の意識調査と感想文の記入を実施する。	A	・学校評価アンケートの「学校行事等への取り組み」はA判定であった。 ・1年間に心の成長を実感する生徒は90%程度であった。 ・6月「人権・同和教育講話」「情報モラル(防犯・交通安全教育)講話」、8月「食育講話」、9月「性に関する講話」を実施した。3月に「いのちの講話」を実施予定である。講話を聞く姿勢と感想文から、しっかりと内容を理解して自身の心の成長につなげようとしていることがわかる。	A	・4回の講話の成果が表れていると思います。 ・コロナ禍で対面の講話が難しい時ですが、リモートやソーシャルディスタンスなど工夫され、生徒たちの成長にもつながると思います。	保健 学年
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価・保護者アンケートにおいて、いじめに関する学校の取り組みの項目がB判定以上を目指す。 ○毎月1回「心のチェック」を実施し、気になる生徒への早期対応を確実に行う。	・生徒、保護者に向け年3回のアンケートを実施する。 ・日頃から生徒の状況を職員全体で共有し、生徒の変化があった場合には速やかに面談・情報共有・保護者連絡を行う。	A	・年3回のアンケートを実施した。気になる記載があった場合は迅速に情報共有と、生徒・保護者への対応に努めることができた。 ・生徒及び保護者の学校評価アンケートにおいて総合A評価をいただいた。 ・週1回、生徒連絡会を実施し情報共有を行った。 ・月に1回の「心のチェック」と、毎日心(気分)の記録を継続したことで、生徒それぞれの気になる様子や小さな変化に気づき対応することができた。 ・12月に、「いじめ防止標語・スローガン」を募集した。今後は選考会を行い約10作品に絞り、イラストを付けて短冊の制作に取り組む。	A	・アンケートのこまめな実施は大切だと思います。 ・アンケートの早期の情報共有は有効だと思います。	生徒指導 保健
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒90%以上を目指す。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上を目指す。	・毎月1週間の「生活チェック表」を記入することで、生徒自身が生活習慣を見直し、改善を心掛けるような意識付けをする。	B	・「健康・体づくり」には規則正しい生活習慣が必要であることを理解できる生徒100%。「健康に食事は大切である」と考える生徒97.5%であり、前年度に比べて増加した。 ・「生活チェック表」による生活習慣の記録を毎日(休業期間も含む)実施とともに、長期休業後に「食と生活に関する調査」を3回実施(4月、8月、1月)した。 ・給食だよりを毎月発行、8月に「食育講話」を実施し、望ましい食習慣について啓発している。 ・「健康・体づくり」に関する理解は深まっているが、行動に移すことが難しい生徒が多い。様々な取り組みを継続していきたい。	B	・食事は家庭からです。家庭でのとり込みが不可欠です。 ・出席率が上がり、給食摂取者が増えると理解と行動が繋がると思います。	保健
	○生徒会活動と部活動を通じ社会性を身につけさせる。	○「部活動を通じ心身が健康になった」と考える生徒80%以上を目指す。	・各部活動において礼儀作法指導や他者と協力して成果を得る活動を行う。 ・協調性や達成感を得る主体的な生徒会活動を実践する。	B	・運動部については新型コロナウイルス感染症予防の観点から今年度は部活動を実施できなかったが、文化部については、感染予防に努めながら活動を行い成果を上げることができた。 ・生徒会行事については、感染症予防に努めながら生徒の主体的な活動ができた。	B	・頑張っていると思う。 ・指標の数値に対する結果がないため評価が難しいですが、生徒会行事を主体的に実施できるということは心身が健康であったと思います。	生徒会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1回の定時退勤日を設定し、時間外に勤務している職員への聞き取りを行う。 ・会議資料の事前配布により時間短縮を図る。 ・職員間の意思疎通と報告・連絡・相談を徹底し、互いに助け合う環境を整える。	B	・年間を通して週1回の定時退勤日を設定するとともに、日ごろから退勤時刻以降に退勤を促す声掛けを行った。昨年度の4月～12月までの時間外勤務平均時間(20:59)と比較して、今年度の時間外勤務平均時間は12:57であった。 ・会議資料について年間を通して事前に配布することができた。会議の進行がスムーズに行われたことにより、短時間で密度の濃い検討や審議が可能になった。 ・職員間の意思疎通や報・連・相の徹底を進めることで、効率的に互いの意見を認識でき、客観的なコミュニケーションをとることができた。	B	・報連相が充分できていれば、勤務時間も短縮できると思います。 ・会議運営や職員相互のコミュニケーションにより、時間外削減が図られたことはすばらしい。始業前の時間外や持ち帰り等はないか検証も必要です。	管理職

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上については、中学校時から続く不登校傾向の生徒が多いことや生徒を取り巻く多様な環境のために、継続的な指導が難しい面があるものの、教員の粘り強い指導の結果、出席状況や学力が好転した生徒もいる。次年度も引き続き、生徒及び家庭環境の情報や指導の引継ぎをしっかりと行って、継続的な指導をしていく必要がある。心の教育については、集団として生きていくための学校行事(講話等)をはじめ、生徒個人々の実情に合わせた取組みや普段からの情報共有を綿密に行うことができた。次年度もアンケートを中心とした実態把握に努め、生徒の心の成長のために工夫をしていきたい。健康・体づくりについては、「生活チェック表」を軸にした生活習慣の育成や食育、そしてコロナ禍における感染症対策などを継続的に行うことができた。次年度も生徒の健康づくりのために必要な行事の精選と効果的な運営に向けて取り組んでいきたい。業務改善・教職員の働き方改革の推進については、定時退勤日を中心とした業務改善の推進や教職員の意識付けに努めた結果、昨年度よりも時間外勤務時間が減少した。会議などの時間短縮に向けた創意工夫や教職員間のコミュニケーションや報・連・相の徹底を行い、業務改善につなげることができた。次年度もさらなる業務改善に向けて取り組んでいきたい。
----------------	--